

松沢研究奨励賞受賞者 研究報告

一つの作品に時間をかけて取り組む 図画工作科の題材研究及び実践共有の試み

横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程美術専攻 H16年3月卒
神奈川県教育委員会湘南三浦教育事務所 増子 朗



1 主題設定の理由

「明日の図工で何かいい題材ありますか？」そのような質問を同僚から受けることが度々ある。教科や時間数がふえ、日々の授業をこなすことが精一杯な学校現場に、図工の教材研究をする時間は残されていない。その場しのぎの題材で授業が行われているのが現状である。

このせわしない時代だからこそ、子どもたちにじっくりと作品に向き合わせ、満足感を味わわせたい。「一つの作品(題材)に時間をかけて取り組む」ことで、子どもたちは、失敗を恐れずゆとりを持って制作へ向かうことができ、表現を深化させることができる。また、教師にとっても、子どもたちの活動を丁寧に見取る時間、次の題材の準備の時間が生まれる。

今回の報告では、そうした考えのもと17年間(後半3年間は図工の専科)取り組んできた図工の実践や授業の工夫を報告する。また「明日の図工で何かいい題材ありますか？」の返答の代わりとして、地区の教員向けに行った研修の様子についても紹介したい。

2 時間をかけて取り組む「しかけ」

「先生できました」と子どもたちはすぐに作品を終わらせようとする。時間をかけて表現を深化させていくには、教師側がいくつもの「しかけ」を用意する必要がある。以下にあげる10のしかけを特に意識して授業を構成している。

①遊びながら技能を習得する

子どもたちは初めての用具・用材への関心が高い。まずは用具・用材を使ってたっぶり遊び、自在に扱えるようになってから、作品づくりへと向かう。

②用具や材料を豊富に用意する

水彩絵の具以外にもインクやパステルなどを用意し、自分で選んで線や色を加えたり重ねたりできるようにする。木工作では材料を豊富に準備し、それぞれが必要だと思える分を十分に使えるようにする。

③描画材を自分でつくる・素材を一から加工する

ペンや筆を自作すると「これを使って描いてみたい」という思いが生まれる。素材(木材・ダンボールなど)を一から加工することで「もっと工夫できる」という思いが生まれる。

④「自分の色をつくる」ために絵の具は必ず混ぜる

「混ぜて使う」このひと手間をかけることにより、表したいもののイメージが生まれ、作品へのこだわりも増す。

⑤本物の材料を用意する

水彩紙やボール紙、陶土や木材など、手応えがあり丈夫で工夫に耐えられる素材を用いる。

⑥思いの持続するモチーフ(主題)を設定する

発達段階に応じたモチーフ(主題)を選び、作品に思いを込められるようにする。

⑦構想や試作に時間をかける(高学年)

いきなり本番の紙や材料を渡されても萎縮してしまう。スケッチや試作の時間を十分に取り、安心して本番に向かわせる。

⑧完成形は子どもが自分で見つける

教師側の完成イメージを安易に感じ取った子どもは「これでいいですか？」を繰り返す。参考作品の提示は慎重にし(できるだけ幅広く多様な作品)、子どもたちが自分で考え、決定しながら完成形を見つめるようにする。

⑨作品名にこだわる

描いたもの(つくったもの)の説明ではない言葉を、ゆっくり時間をかけて紡がせる。偶然できたものを必然へと変えていく作業。

⑩飾る(使う)ところまで責任を持つ

平面は台紙に丁寧に貼って装丁する。立体は実際に使ったり遊んだりする。作品を大切にしたい、鑑賞すること、活用することは、次の創作への意欲につながる。

3 実践してきた題材

「先生できました」の先にある、心から「できた！」の瞬間に立ち会いたい。

「完成形を提示してそれに近づけさせるのではなく、偶然性を生かし毎時間作品が変化していく」「子どもたちの気づきや発見があり、その子らしさやこだわりが見えてくる」そのような授業を目指して取り組んできた題材を紹介する。

3年生

・「お花がいっぱい」 8時間

クレパスで下描きした校庭の花々に、絵の具やパステルを、筆、スタンプ、指を駆使して重ねていく。

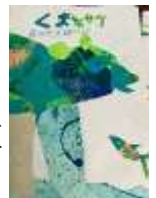
・「夢見る建築家」12時間

てきとうに切った木材を積みながらイメージを広げ、今までに見たことのない建築物をつくる。

4年生

・「自分いろがみ絵本」12時間

さまざまな技法を使ってつくった色紙を切って構成し、色彩豊かな短い絵本をつくる。



- ・「コロコロガーレ」12時間

1枚の段ボール板を切って加工し、ビー玉が長く楽しく転がる世界を組み立てる。



- ・「木々を見つめて」12時間

お気に入りの木のお気に入りの部分から描き始め、コンテ、絵の具、パステルと色を重ね、木の思いや気配を表す。

- ・「トケイランド」12時間

時を感じる場所や風景を、切った木片を組み立て、色を塗り重ねていく中でイメージを広げ、構成する。

5年生

- ・「いつも見ている風景を」12時間

通学路の描きたい風景を切り取り、自作の枝ペンで下描きした上に絵の具とパステルを重ね、その場所のイメージ、空気や時間を表す。

- ・「糸のこドライブ」12時間

なめらかな曲線で切った木片に色を塗り重ね、お気に入りのピースを中心に美しく構成する。

- ・「彫り進み版画」10時間

「何気なく彫った線や形を生かして刷る」ことを3回繰り返し、自分が表したい世界を見つける。



- ・「インドマイガーデン」8時間

公園のデザイナーとなり自分の理想の公園を試作を重ねながらつくり上げ、本物の植物を植えて飾る。

6年生

- ・「墨のうた」10時間

身近な材料でオリジナルの筆をつくり、墨の濃淡や技法を生かした画面をつくる。

- ・「未来の私」12時間+総合8時間



職業リストの中から自分がなりたい職業を調べ、「自分がなりたい瞬間」を身につけた技能を駆使してつくる。



- ・「私の大切な場所」12時間

学校の中で心に残っている場所を選び、構図や色彩を考えながら、その場所の空気や過ごした時間を表す。

4 教員の研修

- ・絵の具の実技研修

茅ヶ崎寒川地区小学校教育研究会「夏季特別研修」で、「お花がいっぱい」の題材をもとに水彩絵の具の実技研修を行った。水彩絵の具を混色するコツ、画面上で絵の具やパステルを重ねていく方法などを、実際に自分で花を描きながら体験し、画面いっぱいに広がる色彩の世界を味わってもらえた。参加者は60名を超えた。

- ・版画の実技研修

湘南教育会館「夏の実践講座」として「児童に買わせた彫刻刀、宝の持ち腐れになっていませんか？」をテーマに、「彫り進み版画」の実技研修を行った。市を超えた教員20名が集まり、偶然性を生かしながら作品が変化していく「彫り進み版画」の工程を体験してもらうことができた。

- ・図工カフェ

湘南教職員組合「青年委員会企画」として、児童の作品を鑑賞し、題材のポイントを紹介をするという企画を行った。それぞれの題材についての概要をcafe menuとして冊子にして配付した。

- ・SNSのグループによる交流

参加者を限定したグループをつくり、日々取り組んでいる図工の題材の写真をUPしている。研修の参加者を中心に50名を超える教員が参加していて、図工の授業についての悩みや質問に答えている。

図工の題材を紹介するにあたり、なるべく教科書の題材を紹介することを意識している。地域の図工を盛り上げるためには、「あの先生だからできる題材」ではなく、「みんなができる」題材が必要だと日々感じているからである。研修会に参加した1人の教員が、自分の学校で他の教員とともに実践していくことで、図工の裾野が広がっていくことを願っている。

5 成果と展望

「技術的な指導もありがたかったのですが、その作品に自分がどんな想いを乗せたいかを引き出してくれる時間が私は一番好きでした。」
「今まで図工が苦手だったのが、少し得意になった気がします。中学生になっても美術の授業はもちろん、その他の授業もがんばっていきたいです。」

上記は、図工が得意な子、下の子は図工が苦手だと思っていた子からの手紙で、専科として教えていた6年生が卒業を前にくれたものである。時間をかけて取り組むことで、得意な子たちには「うまいだけで終わらない表現」を、苦手な子たちには「じっくりと技能を習得する時間」「偶然(失敗)を生かし作品を変化しさせていく時間」を、確保することができた。

新学習指導要領は、知識・技能(何ができるか)⇒思考・判断・表現(できることをどう使うか)⇒学びに向かう力・人間性(どのように生きるか)の三つの柱で再整理された。図工という教科において、この三つの資質を・能力を育むには、「一つの題材に時間をかけて取り組むこと」によって初めて達成できるものではないかと、本研究を通して実感している。今後も教員の図工に対する関心を高め、意識ある仲間をさらに増やしていきたい。